

# 15分で学ぶ！ 障がい者支援の基礎

～発達障がい者によりそう支援とは～

## 第一回 「発達障がいの特徴と具体例」

# 講義の流れ

今回の講義は・・・

まず

①

「発達障がいの  
概要を整理」



次に

②

「障がいの発見  
が遅れがちな  
障がいに着目」



最後に

③

「家族の立場を  
考える」

・・・についてお話しします。

# 発達障がいの概要

小学生の6.5%に相当するとの報告もあり

## 学習障がい

- ・読字障がい
- ・書字表出障がい
- ・算数障がい
- ・特定不能の学習障がい

## 広汎性発達障がい

### ▼自閉症スペクトラムともいう

- ・自閉性障がい（自閉症）
- ・アスペルガー症候群
- ・特定不能の

### 広汎性発達障がい

- ・レット障がい
- ・小児期崩壊性障がい

## 知的障がい

## 注意欠如/ 多動性障がい

- ・不注意優勢型
- ・多動性-衝動性優勢型
- ・混合型

この図はIDC-10とDSM-IV-TRを参考にして作成された概念図です

出典：<https://h-navi.jp/column/article/175>

# 学習障がい

## 【特徴】

全般的な知的発達に遅れは見られないため、日常生活に支障はないが、特定の学習能力に支障がある。

- ・出現頻度：2～10%
- ・障がいの出る能力：聞く、話す、読む、書く、計算する、推論  
例：会話ができるのに、文字がぼやけたり、反転したりする  
例：会話ができるのに、字が書けない。
- \* 勉強の理解度に偏りが生じて気づかれることが多い。

※引用：厚生労働省HP

# 注意欠如・多動性障がい(ADHD)

【特徴】・・・7歳までに発見されることが多い（出現頻度：3～7%）

	特徴
多動-衝動性 優勢型	じっとしていられずいつも活動。席を離れる、座っていても手足をもじもじ、しゃべりすぎる、順番を待つのが困難、他人の会話やゲームに割り込むetc。
不注意 優勢型	やるべきことを最後までやりとげない。学校の勉強でうっかりミスが多い、課題や遊びなどの活動に集中し続けることができない、話しかけられていても聞いていないように見える、課題や作業の段取りが苦手、整理整頓が苦手、集中力が必要なことを避ける、忘れ物や紛失が多い、気が散りやすい、etc。
混合型	上記の両方を併せ持つ

※一般的には成長とともに軽くなる場合が多い。

不注意や衝動性の症状は半数が青年期まで、更にその半数は成人期まで続くと報告されている。

※引用：厚生労働省HP

## 自閉症スペクトラム障がいとは

生まれつきの脳の特徴があり、健常児の発育と同様には成長しない。

自閉症スペクトラム障がい（広汎性発達障がい）の中には、

①社会性、②興味、③コミュニケーション について特異性が認められる。

【主な診断】 自閉症、アスペルガー症候群、特定不能の広汎性発達障がいなど

※出現頻度：2%以上 ※男性が優位に多い。

【以下のものを合併していることも少なくない】

A：知的障がい、 B：てんかん、 C：注意欠如多動性障がい（ADHD）  
D：学習障がい、 E：チック障がい

【よく発見される時期】

①3歳児未満、②小学校中学～高学年（集団になじまず、いじめ）、  
③中学校（学業や集団でなじめなくなる）、④大学ないし社会人

## 発達障がいを抱える方の経過

①	傾向認知期	本人、家族、友人、学校、職場で違和感を感じる。 「変わっているな」「教えづらい」「落ち着きがない」 「物忘れが多い」「人間関係が築くのが得意じゃないな」 ⇔「気のせい」「子供はそんなもの、いずれ落ち着く」、「個性の範疇」
②	問題行動期	通常発達の人たちと同じ生活はしているが、他の人との差異が表面化し、社会生活に支障をきたし始める。
③	不適応期	学校や職場などの社会との接点を閉ざし始める。 ⇔二次障がいのリスク〔同一性拡散、適応障がい、その他の精神疾患〕
④	志向形成期	不適応から生じた二次障がいを克服するために、個々の特性に合った治療や支援、スキルトレーニングを行う時期
⑤	経過観察期	学校や職場に復帰し、経過観察をする時期

※早期発見と早期支援が重要。本来、発達障がい圏の方は、素直な特性の方も多し。人間関係の軋轢などで卑屈になると支援が困難になりやすい。

引用：発達障がい者支援センター [skill-t.org/disability2.html](http://skill-t.org/disability2.html)

## 解説で着目するポイント

幼児期、児童期に認識されずに、軽症例が思春期・青年期に顕在化することも少なくない。

今回の“発達障がいの支援”では、早い段階での支援がスルーされて、ご本人たちなりに**健常者としてもがいた後に、破綻をきたした当事者をベースにして解説していきます。**

※障がい受容が遅れた分、本人なりの培った社会性、障がいに対する否認などがあり、支援介入に配慮を要するため。

## 自閉症スペクトラム障がい①

- ・自然なコミュニケーションが苦手(特に、非言語コミュニケーション)
  - ⇒場の空気が読めない、話の行間を読むのが苦手
  - ⇒時、場所、相手によって対応を変えない
- ・仲間関係を築く、維持するのが苦手
- ・感情や行動の切り替えが苦手
- ・同じことをやり続ける、指示が通りづらい、些細な変更も苦手
- ・興味、活動、習慣が限定的、こだわりが強い
  - (電車、ゲーム、キャラクター、歴史、物理的現象、道順、食べ物など)
  - ⇒自分の好きなことや興味のあることには、毎日何時間でも熱中する。

## 自閉症スペクトラム障がい②

- ・健常者とは異質の世界の中にいる [独自性のある感覚、反応]  
⇒社会の中での生きづらさor創造性や独自性として開花することもある。
- ・ファンタジーへの没頭
- ・自己同一性障がいや性同一性障がいなどを抱えるケースも少なくない。
- ・フラッシュバック(タイムスリップ現象)  
過去の体験をあたかも現在体験しているかのように再体験する。  
不快体験であれば、強い情動反応やパニック状態  
(思い出しパニック) にある。

※参考 三角純子『思春期・青年期のメンタルヘルス～統合失調症と広汎性発達障がいを中心に～』

## 発達障がいの特性：五感に特徴がみられる

- ・五感の感覚が一般的平均よりも特異性がみられる。

### ① 顕著にみられるもの

- ・視覚情報は比較的強い。
- ・聴覚情報には弱い。

- 視覚情報の工夫
- ・ 順序だてて解説
- ・ 図や写真、イラストなどを活用

雑音等に弱い、聴覚過敏⇔絶対音感など鋭い特性を有する場合もあり。

### ② 個別性が高いもの

- ・ 触覚が個性的：感覚鈍麻、感覚過敏
- ・ 嗅覚や味覚の鋭敏さなど

個人差に配慮

## アスペルガー症候群

### 【主な特徴】 他の発達障がいと類似傾向あり

※知的障がいはなく、一般成人よりも優位なIQを有する者も多い。

- ・非言語コミュニケーション、相手の感情を読み取るのが苦手
  - 比喩や抽象的概念、ジョークなどは通じにくい。
  - 共感性に乏しく、他者と感情を共有しにくい。
  - 正直すぎるため、周りから「自己中心的」と捉えられがち。
- ・字義通りに受け取る傾向にあり。
  - 規則性を好み、客観的事実を暗記することに長けている。
  - 想像力・創造性といった感性が弱い。
  - 応用や臨機応変に行動することは苦手。
- ・ストレスの自覚症状に乏しかったり、表現できないことも少なくない。
- ・特定の分野で天才的な能力を発揮することも多い。

## 家族の立場①

### 1. 家族の戸惑いも強い

- ・どの様に対応して良いのかわからず困惑
- ・共感性に乏しい子に対してさみしさ、むなしさを感じやすい。
- ・周囲に打ち明けることができない辛さ
- ⇒障がいのある子供産んでしまった負い目を有することも多い。
- ⇒身内にすら、後ろめたさを有する場合が多い。
- ・障がい受容も様々
- ⇒障がいであることを知り、安堵する場合と否認する場合  
いずれにしても、社会で生きていけるのか不安を抱える。

## 家族の立場②

### 2. かかわり方：大きな二つの特徴

#### ① 叱咤激励する

・もどかしさを抱え、叱咤激励してしまう。

#### ② 丁寧な関わり

・母など、家族がマンツーマンで丁寧に取り組むことで順応

**\* 両親の高齢化に伴いパワーバランスが崩れ、本人を統制できなくなり、問題が顕在化、深刻化することもある。**

## 家族の立場③

### 3. 支援者のかかわりにおいても、希望と不安を併存

- ・常に自分たちだけで見守り切れない
  - ⇒専門的視点での確かな理解を深めて関わるチャンス
  - ⇒レスパイト的な意味合い
- ・家庭ほど個別性に富んだ支援をしてくれる保証がない。
  - ⇒集団生活の中で、特異な習性が身につけてしまう不安

## 安易に発達障がいの診断がなされている懸念

- ・対人コミュニケーションの希薄さから、メタコミュニケーションが習熟していない若者も多く居る。
  - ・機能不全家庭で育つ子供は、就学の低下との関連性あり
- ※早期に知的障がいや発達障がいと見立てることが、良い支援につながったり、二次障がいを防止することにつながる一方、当事者の可能性の減退につながる可能性もある。
- ⇒本人の特性と周囲環境から、ご本人を的確に捉えて支援していく必要がある。

## ま と め

- 1. 発達障がい圏の当事者は、  
様々な独自性を有する。**
  - ・基本的な特性を理解しつつ、個々人の  
特異性を最大限配慮する。
- 2. 家族支援の重要性**
  - ・アンバランスさを有するため、  
家族も困惑していることが少なくない。